

「越境」するMultilingual Scholarsになる

日本で博士号を取得し中国の大学で働く日本語教師の現状と課題

報告1:若手日本語教師の学術実践:主体的な選択、行動に着目して

黄均鈞さん(華中科技大学)

報告2:若手日本語教師が直面する中国語アカデミック・ライティング不安の実態

田佳月さん(西安外国語大学)

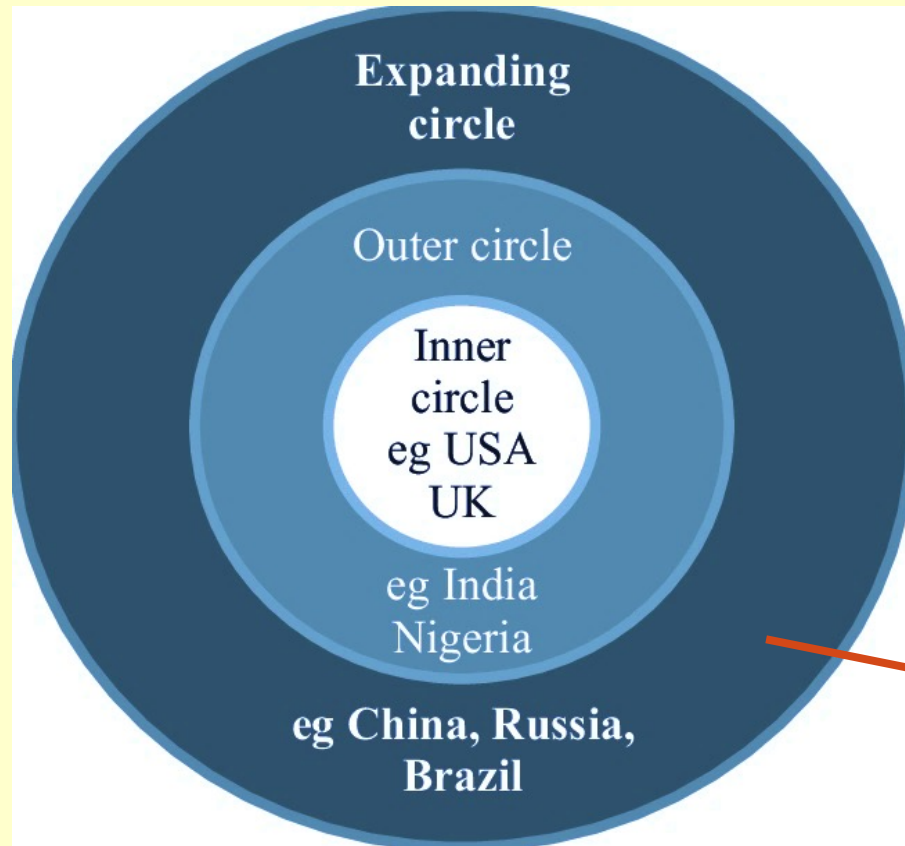
報告3:

徐愷萌さん(華中科技大学)

報告4:学会誌の研究意義の表現から見る日本と中国の学術文化の相違

董芸さん(深圳大学)

用語の説明



Kachru, 1985

→ **Multilingual Scholars** (Curry & Lillis, 2004)



問題提起

ケース1 ハンガリー、スロバキア、スペインの出版事情 (Curry & Lillis, 2004)

1) **研究対象** 教育学、心理学の多言語研究者 (31名) と各学部、機関の政策文書

2) **調査発見**

①異なる言語で、様々なコミュニティに向けてライティング

②英米ジャーナルをめざす動機:

a) より多くの読者に伝える、

b) より広い国際的な文脈で認めてもらう、

c) 制度的に報われる

⇒ 出版行為は、常に利益、要求と報酬との交渉の中でなされているもの。



問題提起

ケース2 韓国の高麗大学 (USK) の出版事情 (Lee,2013)

1) 分析対象：USKの政策文書、多様な専門分野出身の教授（20名）

2) 調査発見

①USKの不平等な言語政策

②国際誌（英語誌）1本＝国内誌2本という雑誌地位の格差[↑] ←奨励金制度

a.国際的な学者との交流が韓国の学者より価値がある

b.英語誌に拒絶された論文は、最後の手段として国内誌に戻す

c.国内誌は大学院レベルの研究を掲載する場

⇒ 国際誌か国内誌かの選択は**学者個人に任される**というのを前面に出されるものの、**選択肢自体の不平等や学問の特殊性を考慮に入れていない。**



問題提起

ケース3 中国の学術出版事情 (Zheng&Guo,2019)

1) 分析対象：ロシア語、ドイツ語、日本語、韓国語、フランス語を専門とする30代～40代の多言語研究者（15名）

2) 調査発見

- ①各言語分野で影響のある雑誌が中国国内誌コアリスト（CSSCI）にない。
- ②多言語資源を資本に転換することに成功する学者もいる。
- ③対応の方法：中国語要素を投入、多言語の専門知識を動員、中国語/英語のライティングスキルの養成、研究者ネットワーク・リソースの活用。

⇒ **言語実践**は言語的な慣習 (linguistic habitus) と構造的な言語市場との間の緊張関係にあり、**流動的なもの**である。



問題提起

1) 世界の高等教育

- 高等教育の効率、競争と統制を重視する「管理主義」の浸透（項飆，2021）
- 学術出版業界における英語の支配的な力（Flowerdew, 2000）

2) 中国の国家政策

- 中国文化・中国学術は外へ（2013年）
- 世界一流大学・一流学科建設（教育部, 2015）

3) 大学の雇用制度

- 任期制の導入「大学レベルにもよる」（3年＋3年の業績審査を通れば、「終身在職権」を獲得）…
- **ポイント制**による業績評価

4) 帰国者の「履歴」

- 日本語の学術リテラシーに頼る傾向
- 中国のソーシャルネットワークの欠如（人脈リソース、「学縁」など）…